

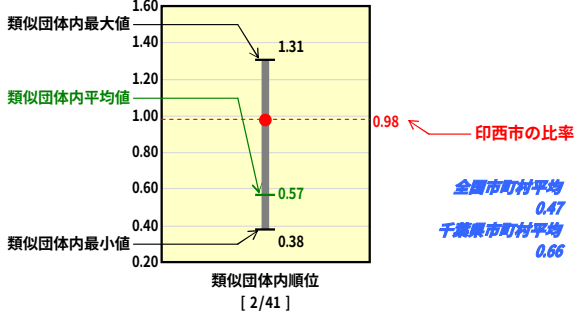
# 市町村財政比較分析表(平成16年度決算)

## 千葉県 印西市

|      |                       |
|------|-----------------------|
| 人 口  | 60,898 人(H17.3.31現在)  |
| 面 積  | 53.51 km <sup>2</sup> |
| 歳入総額 | 20,861,041 千円         |
| 歳出総額 | 19,963,935 千円         |
| 実質収支 | 763,646 千円            |

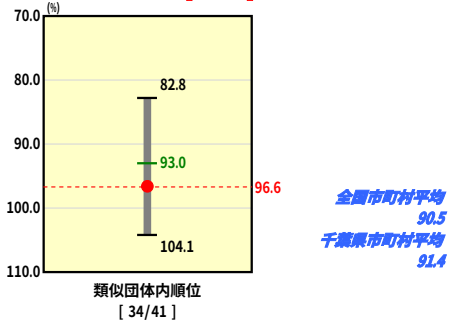
### 財政力

財政力指数 **[0.98]**



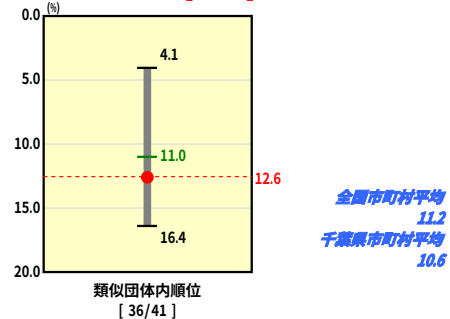
### 財政構造の弾力性

経常収支比率 **[96.6%]**



### 公債費負担の健全度

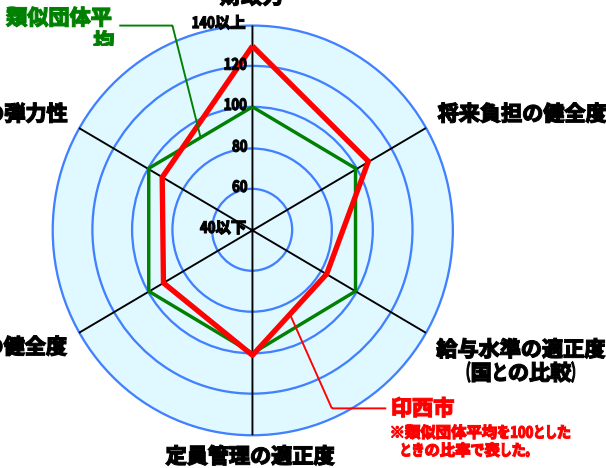
起債制限比率 **[12.6%]**



### 財政構造の弾力性

### 公債費負担の健全度

### 財政力



※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を88のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

### 分析欄

○財政力指数  
地方交付税法の規定に基づき算定した基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去3ヵ年の平均値で、地方公共団体の財政力を示すもの。数値が高いほど財政的に豊かであるといえるが、当市の場合は、市税収入が減少している中、国の交付税制度見直しの影響で、平成16年度には普通交付税が不交付となり、財政力指数は単年度で1.034であった。

○経常収支比率  
歳入は地方交付税が減少し、歳出は将来的な見地から平成16年度に予定していた平成17年度の減税補てん債の借換債約6億円発行を行わなかったことや扶助費の増加等によって、全体で、前年に対して約8.8%の大幅な増となった。

なお、平成16年度の特種要因である平成17年度の減税補てん債の借換債の発行を行わなかったことによる影響は、およそ4.6%の上昇となっており、この要因を除くと類似団体平均値よりも低い9.2%程度であった。

○起債制限比率  
分子である公債費充当一般財源が、上記の特種要因によって、全体で約5億4千万円増加となった。このため平成16年度の単年度比率が上昇した影響で、前年度に対し約2.6%の大幅な増となった。

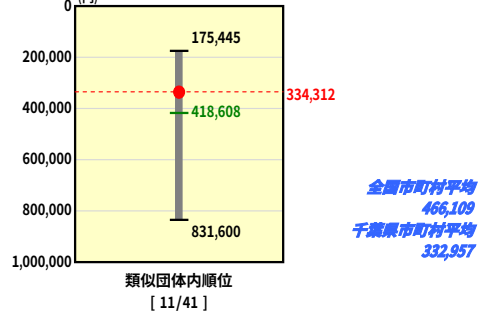
○人口1人当たり地方債現在高  
当市は、類似団体平均よりは低水準ではあるものの、新住宅市街地開発事業区域(千葉ニュータウン)関連の地方債残高が大部分を占めていることから、今後も中長期的な視野に立ち、地方債の残高管理に努めていく。

○ラスパイレス指数  
現行の年功的な要素が強い給料表の構造により、高齢層職員の指数が高いため、全体数値を引き上げている。今後、こうした年功的な体系を見直し、職務・職責に応じた構造への転換を図る観点から、職務の段階の給料表水準の重なり縮小、標準昇給額の圧縮などの措置を講ずることにより、ラスパイレス指数の低下を目指す。

○人口1,000人あたり職員数  
現在、類似団体平均を下回っているものの、千葉ニュータウン事業や平成8年4月1日市制施行への対応などによる採用増により、定員管理調査における定員モデル職員数を超過している状況にあることから、職員の年齢構成を考慮しながら、採用を退職者数の半数程度に抑制するなどして、定員管理の適正化を図り定員モデル超過数の解消を目指す。

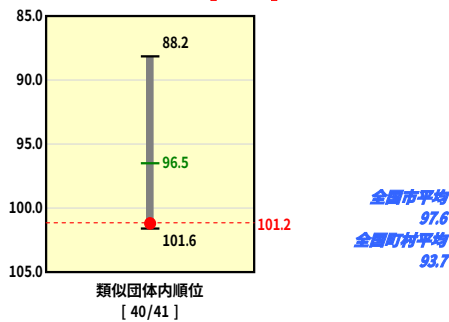
### 将来負担の健全度

人口1人当たり地方債現在高 **[334,312円]**



### 給与水準の適正度(国との比較)

ラスパイレス指数 **[101.2]**



### 定員管理の適正度

人口1,000人あたり職員数 **[7.87人]**

